

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-46978

(43)公開日 平成6年(1994)6月28日

(51)Int.Cl.⁵

B 4 3 K 3/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 8906-2C

審査請求 未請求 請求項の数5(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-85056

(22)出願日 平成4年(1992)12月10日

(71)出願人 000156134

株式会社壽

京都府京都市北区紫竹西栗栖町13

(72)考案者 新井 幸夫

埼玉県川越市大字鯨井138番地 株式会社

壽川越工場内

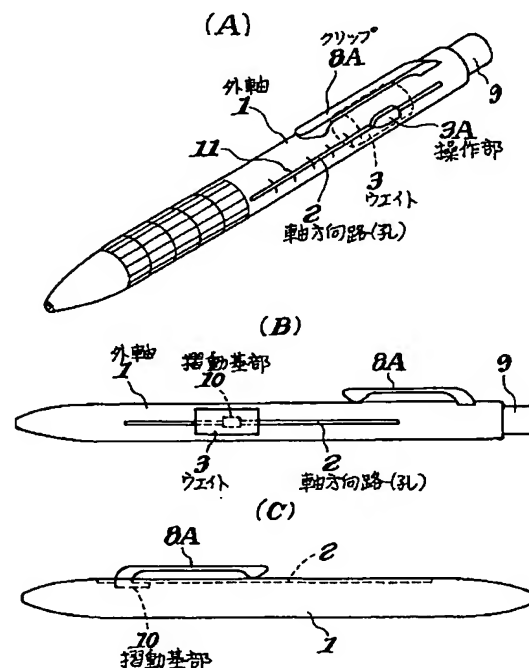
(74)代理人 弁理士 石戸 元

(54)【考案の名称】 筆記具

(57)【要約】

【目的】 ウェイトを軸方向に移動し、ウェイトの位置を使用者の好みの位置に変更する。

【構成】 外軸1にウェイト3を軸方向移動可能に挿装し、若しくは外軸1内又は外に、外軸1に設けられた軸方向孔2に沿って移動するウェイト3を装着し、このウェイト3自体又はその操作部3Aで移動できる構成とする。



BEST AVAILABLE COPY

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 外軸(1)にウエイト(3)を軸方向移動可能に嵌装してなる筆記具。

【請求項2】 外軸(1)内又は外に、外軸(1)に設けられた軸方向路(2)に沿って移動するウエイト(3)を装着し、このウエイト(3)自体又はその操作部(3A)で移動できる構成としたことを特徴とする筆記具。

【請求項3】 ウエイトがクリップ(8A)である請求項2の筆記具。

【請求項4】 外軸(1)内のレフィール(4)の外周に、雄ネジ又は同心状に筒状の雄ネジ(5)を設け、この雄ネジ(5)に雌ネジを螺合させたウエイト(3)の外面に、軸方向路(2)に摺動自在に嵌入するガイド突部(6)を設け、雄ネジ(5)を回転させる回転つまみ(7)を外軸(1)の外周に嵌着してなる請求項2の筆記具。

【請求項5】 軸方向路(2)は軸方向孔である請求項2又は4に記載の筆記具。

*

2

*【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案筆記具の第1実施例の構成を示す側面図である。

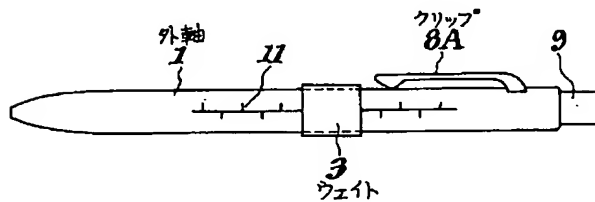
【図2】 (A)～(C)はそれぞれ第2実施例の各種変形例の構成を示す斜視図及び側面図である。

【図3】 (A)は第3実施例の構成を示す側面図、(B)はその一部を破断して示した正面図である。

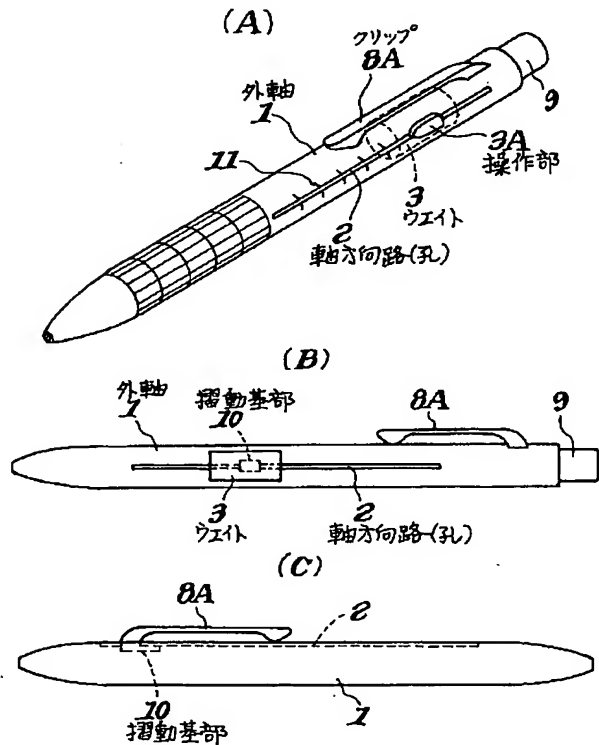
【符号の説明】

- 1 外軸
- 2 軸方向路(孔)
- 3 ウエイト
- 3A 操作部
- 4 レフィール
- 5 雄ネジ
- 6 ガイド突部
- 7 回転つまみ
- 8A クリップ
- 10 摺動基部

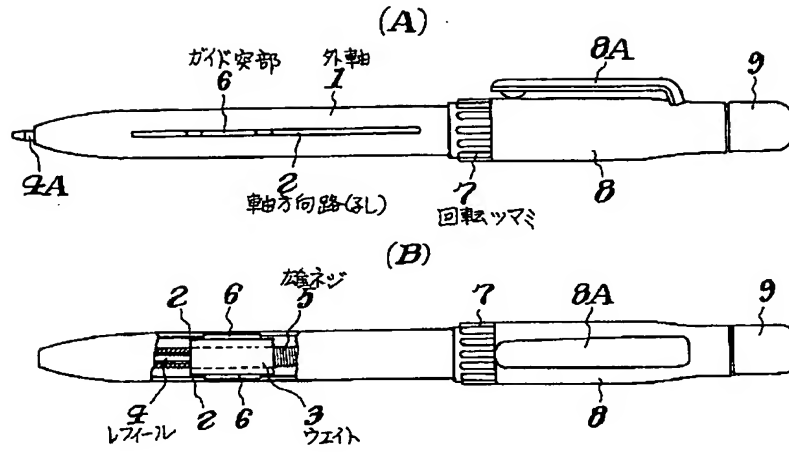
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案はボールペン、シャープペンシル、万年筆等の筆記具に係り、特に重心位置を使用者の好みの位置に設定できる筆記具に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来は筆記時の重心を使用者の好みの位置に合わせて変更できるようになっていない。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

従来は、上記のように使用者の好みの位置に重心を変更することができないので、長時間、筆記すると疲労するという課題があった。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案筆記具は上記の課題を解決するため、外軸1にウエイト3を軸方向移動可能に嵌装し、若しくは外軸1内又は外に、外軸1に設けられた軸方向路2に沿って移動するウエイト3を装着し、このウエイト3自体又はその操作部3Aで移動できる構成としたことを特徴とする。

【0005】**【作用】**

筆記時に外軸1に沿ってウエイト3を軸方向に移動させ、若しくはウエイト3自体又はその操作部3Aを軸方向路2に沿って移動させ、ウエイト3の位置を変えて使用者の好みの位置に重心を変更できることになり、長時間、筆記しても従来より疲労を軽減できることになる。

【0006】**【実施例】**

図1は本考案筆記具の第1実施例の構成を示す側面図で、ボールペンに適用した場合である。

この第1実施例は、外軸1の外周にウエイト3を軸方向移動可能に嵌装し、かつ外軸1の軸方向に目盛11をなした構成である。8Aはクリップ、9はロック部である。

上記第1実施例において筆記時に外軸1に沿ってウエイト3を軸方向に移動させ、ウエイト3の位置を目盛11を参考にして変えて使用者の好みの位置に重心を変更できることになる。

【0007】

図2(A)～(C)はそれぞれ第2実施例の各種変形例の構成を示す斜視図及び側面図で、ボールペンに適用した例である。

図2(A)の例は、外軸1内に、外軸1に設けられた軸方向孔2に沿って移動するウエイト3を装着し、このウエイト3に軸方向孔2を介して操作部3Aを接続してなる。

図2(B)の例は、外軸1外に、軸方向孔2に沿って移動するウエイト3を装着し、このウエイト3に軸方向孔2を介して摺動基部10を接続してなる。

図2(C)の例は、外軸1外に、軸方向孔2に沿って移動するウエイトとしてクリップ8Aを装置着し、このクリップ8Aに、軸方向孔2を介して摺動基部10を接続してなる。

【0008】

上記第2実施例の各種変形例において、筆記時にウエイト3自体又はその操作部3A若しくはクリップ8Aを軸方向孔2に沿って移動させ、ウエイト3の位置を変えて使用者の好みの位置に重心を変更できることになる。

図1及び図2(A)～(C)のボールペンは、後端ノックにより公知のノック式ボールペンと同様に筆記先の出没を行えることは勿論である。

【0009】

図3(A)は第3実施例の構成を示す側面図、図3(B)はその一部を破断して示した正面図で、シャープペンシルに適用した場合である。

この第3実施例は、外軸1内のレフィール4の外周に、同心状に筒状の雄ネジ5を設け、この雄ネジ5に雌ネジを螺合せしめたウエイト3の外面に、軸方向孔2に摺動自在に嵌入するガイド突部6を設け、雄ネジ5を従来公知のギヤを介し

て回転せる回転ツマミ 7 を外軸 1 の外周に嵌着してなる。

なお、8 は後軸、8 A はクリップ、9 は内部に消ゴムを収めたノック部である。

【0010】

上記構成の第3実施例において筆記時に回転ツマミ 7 を回転すると、これにギヤを介して連結された雄ネジ 5 が回転し、この雄ネジ 5 に螺合するウエイト 3 が、そのガイド突部 6 を軸方向孔 2 に嵌入しているので、軸方向に移動し、ウエイト 3 の位置を変えて使用者の好みの位置に重心を変更できることになる。

図3のシャープペンシルは、後端ノックにより図3(A)に示すように先パイプ 4 A を突出後、ノック部 9 をノックすることにより従来公知のノック式シャープペンシルと同様に先パイプ 4 A から芯を繰り出すことができ、又ノックした状態で芯先を押すことにより先パイプ 4 A 及び芯を引っ込めることができることは勿論である。

【0011】

本実施例では上記のようにウエイト 3 又はウエイトとしても使用するクリップ 8 A の位置を変えて使用者の好みの位置に重心を変更できるので、長時間、筆記しても従来より疲労を軽減できることになる。

なお、本考案における軸方向路 2 を孔にすると、ウエイト 3 の位置を目で確認できるが、必ずしも孔である必要はなく、溝であってもよい。

【0012】

【考案の効果】

上述のように本考案によれば、外軸 1 にウエイト 3 を軸方向移動可能に嵌装し、若しくは外軸 1 内又は外に、外軸 1 に設けられた軸方向孔 2 に沿って移動するウエイト 3 を装着し、このウエイト 3 自体又はその操作部 3 A で移動できる構成としたので、ウエイト 3 の位置を変えて使用者の好みの位置に重心を変更でき、長時間、筆記しても従来より疲労を軽減することができる。